

## 【1. 概要】

- ・いちご栽培において、天敵や物理的防除資材等を活用したIPMに地域で取組みを実施
- ・県内導入面積は約16.8ha、平成22年度比163%増
- ・普及促進のため、研修資料を作成し、講習会を開催(平成27年度は3回)



図1. 産地のオリジナルブランド

イチゴにおけるチリカブリダニ利用の手引き



ナミダニ(右)を捕食するチリカブリダニ(左)

香 川 県

図2.天敵利用の手引書

## 【2. 実践内容】

## (1) 取組みの背景、経緯

- ・ハダニ類やアザミウマ類の薬剤感受性低下により、化学合成農薬による防除効果が期待できなくなった
- ・他産地との差別化(オリジナルブランド)による販売者へのアピール、消費者の安全安心農産物のニーズに応えたいという、産地・生産者の意欲(図1)

## (2) 普及拡大に向けたポイント、成功要因

- ・農業試験場による化学農薬以外の防除法の開発、天敵での効果的防除法の検討(手引書作成)、現場への技術的アドバイスにより、病害虫防除は上手く向上し、生産者の意欲が高まった(図2)
- ・先にIPMを導入した産地の成功事例を普及センターが他産地で説明したことにより、他産地でもIPM導入に繋がった

## 【3. IPMの推進による効果、得られた経験】

- ・IPMに取り組む産地は、平成22年度は2産地約10.5haであったのが、27年度は3産地16.8ha、28年度は4産地に拡大予定
- ・IPMに取り組んでいない産地においても、個人で積極的に取り組む生産者が出てきた